

「柳林農社」は渋沢栄一さんが、明治7年の1月に真岡市に設立した株式会社です。1874年のことなので、今から約150年前のことです。これは、栃木県でも最も古い株式会社になります。株式会社とは、会社を作るためにお金を出した人が、出した金額に応じて、会社に利益があった場合、その利益の一部をもらえる仕組みになっています。この柳林農社は渋沢栄一さんをはじめ6名の方がお金を出し合って設立した会社です。渋沢栄一さんを含め5人は渋沢さんの親戚です。その中から、福田彦四郎さんが、実際に柳林村に住んで会社の経営にあたりました。



柳林農社の跡地にある案内板

しゅつひん  
出品（日本から外国に売る品物）で  
した。

しかし、会社ができて5年ほどの間に、生糸や蚕種を外国に販売するときの価格が下がり、予想していたほど利益を得られませんでした。

渋沢栄一さんは「日本資本主義の父」とも言われ、日本で最初に銀行をつくるなど、今も日本にある多くの会社の設立に関わりました。柳林農社は養蚕と蚕種、茶の製造を目的として設立された株式会社でした。蚕種とは、養蚕に使用する蚕の卵を生産することです。養蚕と蚕種は明治時代の始め頃の日本にとっては、とても重要な輸

**柳林農社の規模**

- ・ 土地 明治7年 **12町1反**  
※ 8町7反は桑園  
残りは建物や茶園の敷地
- 明治13年 17町3反  
※ 1町は約1ha (100m×100m) 平均的な校庭1つ分ほど
- ・ 働く人の数  
常時雇用 20人 + 養蚕の時期 (50日間) 30人
- ・ 建物

木小屋	製茶場	土蔵
	駄馬	住居
蚕室		

一番大きい蚕室の幅は約60m  
総2階建て

柳林農社の規模

柳林農社は、その後、農家へのお金の貸し付けを中心に運営していきませんが、明治15年には、世の中が不景気になり、こちらもうまくいきませんでした。

蚕種の価格が下がったことと、世の中の不景気が原因で柳林農社は明治20年12月には会社としての経営をやめることとなります。柳林農社の経営は、うまくいきませんが、栃木県でも最も古い株式会社が真岡につくられたことは、素晴らしいことです。



※柳林農社の敷地だったところには、  
現在ホンデン製作所という会社があります。写真の場所は、かつての柳林農社の建物の中庭になります。当時の樹木も残っています。

現在の柳林農社の跡地